

【 設問アプローチ 】

[15 - B]

問1 : ① [設問チェック] 傍線部と 〈 同じ 〉 漢字を選ぶ問題であることを把握する。

② [アプローチ] 本文読解の際、傍線部に差し当たってその語句に適切な漢字を文脈を参考にしながら判断し、本文の空いているところにメモしておく。

③ [設問読解] 本文を一通り読み終えてから、改めて設問文を確認し問題を解く。
②を踏まえて、選択肢から傍線部と同じ漢字を使用する語句を、解答として選ぶ。

問2 : ① [設問チェック] 設問文から、解答を求めるためのポイントは以下の2点であることを掴む。

(1) 「ギブソンの考え」とは、どのようなものであったか。

(2) ギブソンの考えを、「筆者はどのように修正」したのか。

→ [アプローチ] ①を踏まえて、本文からポイントとなる内容を明らかにする。

② [本文読解] 2行目に「 - とギブソンはのべた。さらにかれば、 - 」とあり、
2行目以降 ～ 傍線部①までの内容が「ギブソンの考え」であることが分かる。
→ 〈 根拠A 〉

さらに、傍線部①の内容を受けて、直後に「たとえば、 - 」とあることから、傍線部①以降が「筆者がギブソンの考えをどのように修正したのか」の内容になっていることが分かる。
→ 〈 根拠B 〉

〈 根拠A 〉と〈 根拠B 〉を比較し、相違点を見出すことで、
筆者がギブソンの考えを修正した後に提示した「筆者自身の独自の考え」が明らかになる。

→ 11行目の(ロ)の内容、またその言い換えの17行目 ～ 19行目の内容が
「筆者が修正して新たに加えた意見」であることが分かる。

③ [設問読解] ②を踏まえて、「ギブソンの考え」と「筆者が修正して新たに加えた意見」を、
それぞれ適切に説明した選択肢を解答として選ぶ。

問3 : ① [設問チェック] 傍線部についての「内容説明」が求められていることを把握する。

② [本文読解] 19行目以降の意味段落が「媒体」をテーマとしており、
傍線部②もその話題について言及した内容の一部であることを把握する。

31行目に「媒体は、-」という〈言葉の定義づけ〉があり、この流れを汲んで傍線部②があることを掴む。また、傍線部②以降の部分では36行目に「要するに」という論理語があり、この後に「媒体は、-」という内容説明が続いている。

→ 以上のことから、傍線部の前後(30行目～32行目の辺りと36行目～38行目の辺り)に傍線部の内容説明があることが分かる。

- ③ [設問読解] 選択肢文をざっと見ると、共通して「媒体は」で始まっていることが分かる。このことから、②で確認したように本文で「媒体」がどのようなものであるかを言及した部分が〈根拠〉となることが改めて確認される。

以上のことから、②で把握した〈根拠〉を適切に説明した選択肢を解答として選ぶ。

問4 : ① [設問チェック] 傍線部について、「筆者の考え」が問われていることを把握する。

- ② [本文読解 ①] 傍線部③を含む一文に「-とは、ということなのか。」とあることから、傍線部③以降の部分に、傍線部③に関する内容説明はあることが〈予想〉される。

また、72行目に「ところで」があり、ここから新しい意味段落に変わっていることが分かる。そこから、傍線部③に関する内容説明は、65行目～71行目の範囲にあることが考えられる。→ この範囲の内容の中で、傍線部に関する「筆者の考え」を見つける。

- ③ [本文読解 ②] 71行目の文末に「-いえよう。」という〈筆者の主張〉を示すフレーズがある。このことから、②で確認した範囲が〈根拠〉であると判断できる。
- ④ [設問読解] ②、③で確認した〈根拠〉を踏まえて、内容を適切に説明した選択肢を解答として選ぶ。

問5 : ① [設問チェック] 設問文から、解答を求めるためのポイントは以下の2点であることを掴む。

(1) 3つの波線部の「内容説明」は、それぞれどのようなものか。

(2) 3つの波線部の「論理的関係」は、どのようなになっているか。

- ② [本文読解] 72行目から新しい意味段落の内容になっているので、波線部に関する内容説明も、まずは72行目以降から探してみる。

まず、〈波線部Ⅰ〉の言い換えが、80行目にあることを掴む。そして、同じ行の「環境が-」からの内容を次の行(81行目)の「いわゆる」が受けていることから、80行目の後半の内容の言い換えが〈波線部Ⅱ〉であることが分かる。

また同時に、80行目の前半と後半がそれぞれ〈波線部Ⅰ〉と〈波線部Ⅱ〉の言い換えであったことから、80行目の「-かぎりは、-」の構文から、『〈波線部Ⅰ〉の「範囲」で〈波線部Ⅱ〉が成り立つ』という「論理的関係」も理解される。

〈波線部Ⅲ〉については、波線部Ⅲ直前の93行目「とはいっても、-」からの内容と論の展開が、82行目「とはいっても、-」～85行目の言い換えであることが読み取れる。

→ ここから、72行目～85行目の段落が3つの波線部の「内容説明」と「論理的関係」をすべて提示し、設問の〈根拠〉とすることのできる部分であることが分かる。

82行目からの論の展開で分かるように、〈波線部Ⅲ〉は〈波線部Ⅰ〉と〈波線部Ⅱ〉の内容を補足説明する「論理的関係」になっていることが分かる。

- ③〔設問読解〕②で把握した3つの波線部の「内容説明」と「論理的関係」を、それぞれ適切に説明した選択肢を、解答として選ぶ。

問6 : ①〔設問チェック〕設問文のポイントとしては、「境域としての環境」というフレーズが、本文中に〈くり返し使われている〉と明言されていること。

また、適当な内容を選択肢から〈二つ〉選ぶということにも注目しておく。

→〔アプローチ〕本文読解の際に、「境域としての環境」のフレーズをキーワードとしてチェックし、その内容説明を〈根拠〉として掴んでおく。

- ②〔本文読解〕①で確認したように、本文中の「境域としての環境」というフレーズに注目しながら本文を読解する。

→「境域としての環境」は〈48行目〉、〈86行目〉、〈90行目〉の3か所にある。それぞれの部分で、内容説明のあるところを〈根拠〉として把握する。

- ③〔設問読解〕②で把握した〈根拠〉を踏まえて、内容を適切に説明した選択肢を〈二つ〉選んで解答する。